

実施要領 様式11(第13条関係)

[認知症対応型共同生活介護用]

評価結果公表票

作成日 平成22年5月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0272300641
法人名	医療法人 慶成会
事業所名	グループホームすごう
所在地	南津軽郡藤崎町大字葛野字新岡元56-1 (電話) 0172-75-3330
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年1月22日

【情報提供票より】(平成21年12月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤 0人, 常勤換算 7.25人

(2)建物概要

建物構造	木 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 10,200 円他	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		950 円	

(4)利用者の概要(平成21年12月1日現在)

利用者人数	15 名	男性	2 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.5 歳	最低	59 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	須郷医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者及び職員は地域密着型サービスの役割と意義を理解しており、全職員で話し合い、「私達は利用者の皆様に真心をもって接し 地域の一員として生きがいのある 安全で穏やかな生活が送れるよう支援致します」というホーム独自の理念を掲げている。利用者はお客様ではなく、家族の一員であると捉え、利用者や家族の意向や希望を把握しながら、理念の実現に向けて日々のケアサービスを提供している。

利用者等が希望する医療機関への受診を支援するほか、准看護師の資格を持つ職員を配置したり、母体の医療機関による医療相談や訪問歯科診療を行うなど、医療支援体制が充実している。

建物は広く、グループホームとしての空間とは別に、広い調理室や和室がある。調理室では利用者と一緒に食事の下準備をしたり、和室には遠方からの利用者親族が宿泊するなど、広い建物を有効に活用している。

町内会などの地域との交流や連携を積極的に図るほか、ホームの見学や職場体験、ボランティアの受け入れなどを行い、地域に開かれたホーム作りを行っている。

【特に改善が求められる点】

日常生活自立支援事業や成年後見制度について、全職員が概要を十分理解するまでには至っていないので、社会福祉協議会の協力を得るなど、講師を招いて内部研修を実施するなどの取り組みに期待したい。また、必要に応じて利用者や家族等に情報提供を行う体制を整えることに期待したい。

金銭管理について、領収書と出納帳を別の簿冊で管理しているため、家族に報告しやすいよう、1つの簿冊で管理する等の工夫を行い、月1回は家族に報告する体制を作ることに期待したい。

高齢者にとって水分摂取量が心身に与える影響は非常に大きいので、水分摂取量を把握し、記録することに期待したい。

【重点項目への取組状況】

【各領域の取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果を基に全職員で改善策を話し合うと共に、運営推進会議でアドバイスをもらうなど、より良いサービスを提供するための取組みを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価や外部評価の意義を全職員が理解しており、自己評価は全職員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、委員には積極的に参加を促している。会議では、ホームの取組みや利用者の暮らしぶり、自己評価や外部評価の結果及び改善策等を報告し、意見交換を行っており、委員から出された意見は今後のより良いサービス提供につながっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>利用者の暮らしぶりや健康状態等について、面会時やホーム便り、電話で家族に報告している。 面会時は必ず家族と話す時間を持つなど、家族が意見や苦情等を話しやすい働きかけを行っている。また、重要事項説明書にホーム内外の苦情受付窓口を明示するほか、ホーム内に掲示し、継続的に家族に周知している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の人と日常的に声を掛け合うほか、町内会に加入して地域行事に参加したり、ホーム行事に招待するなど、積極的に地域との交流を図っている。また、パンフレットを配布したり、中学生の職場体験、見学、実習、種々のボランティアを受け入れるなど、ホームの持つ専門性を地域に還元する取組みを行っている。実習生等の外部の方を受け入れる際は、誓約書を交わすなど、利用者のプライバシー保護に十分配慮している。</p>

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>理念を事務室や廊下に掲示すると共に、職員間で唱和するなど、全職員への周知・理解を図っている。「迷ったときは理念に立ち返る」を基本姿勢とし、理念の実現に向けて日々のケアに取り組んでいる。運営者は、職員研修の必要性を理解しており、資格取得を推奨すると共に、年間計画を作成し、積極的に職員を外部研修に派遣している。受講時は、日々のケアに支障をきたさないよう勤務体制等に配慮している。受講後は報告書を作成し、全職員が参加して伝達研修を行っている。業務に関する相談は、法人内の他施設の職員等から助言を得ている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者や家族の意向に沿ったサービスを提供できるよう、十分に話し合いを行うほか、入居前にホームの見学や体験入居などを促し、馴染みながらサービスを利用できるよう支援している。 日々の観察等により、利用者の楽しみごとや喜怒哀楽を把握できるよう努めている。また、利用者は家族の一員と捉えており、食事の後片付けを手伝ってもらうなど、利用者と職員が支え合いながら生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画作成時は、利用者や家族等から可能な限り情報を収集するほか、カンファレンスで日々の状況等を担当者から聞いたり、職員間で情報交換を行っており、利用者本位の具体的な内容となっている。 准看護師の資格を持つ職員を配置したり、希望により訪問歯科診療を実施している。また、遠方からの親族の宿泊希望に対応し、寝具の提供などを行ったり、ホームの車両を利用して、馴染みの美容院や墓参りに出かけるなど、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の言動を否定せず、一人ひとりを尊重した対応を心がけている。また、声掛け等は利用者のプライドを傷つけないよう配慮している。職員は個人情報保護法を理解しており、利用者の個人記録等は事務室に保管するなどの対応を行っている。 入居前から愛用してきた物や馴染みの物を持ってきてもらうよう、家族に積極的に働きかけている。また、行事の写真を飾るなど、一人ひとりが居心地良く過ごせる居室づくりを行っている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は、地域密着型サービスの役割を理解している。全職員で話し合い、「私達は利用者の皆様に真心をもって接し 地域の一員として生きがいのある 安全で穏やかな生活が送れるよう支援致します」というホーム独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務室や廊下に掲示すると共に、職員間で唱和するなど、全職員への周知・理解を図っている。「迷ったときは理念に立ち返る」を基本姿勢とし、理念の実現に向けて日々のケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣の人と日常的に声を掛け合うほか、町内会に加入して地域行事に参加したり、ホーム行事に招待するなど、積極的に地域との交流を図っている。また、パンフレットを配布したり、中学生の職場体験、見学、実習、種々のボランティアを受け入れるなど、ホームの持つ専門性を地域に還元する取り組みを行っている。実習生等の外部の方を受け入れる際は、誓約書を交わすなど、利用者のプライバシー保護に十分配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義を全職員が理解しており、自己評価は全職員で取り組んでいる。外部評価結果を内部研修や会議等で話題に取り上げ、改善策を検討し、全職員で改善に向けた取り組みを行っている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、委員には積極的に参加を促している。会議では、ホームの取り組みや利用者の暮らしぶり、自己評価や外部評価の結果及び改善策等を報告し、意見交換を行っており、委員から出された意見は今後のより良いサービス提供につなげている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の窓口にホームパンフレット等を配布するほか、自己評価や外部評価の報告も行っている。また、運営推進会議以外においても、利用者に関する相談等を随時行うなど、行政との連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修やその後の内部研修を通じて、制度を学習する機会を設けているが、全職員が概要を理解するまでには至っていない。	○	社会福祉協議会の協力を得るなど、講師を招いて内部研修を実施する等の取り組みにより、全職員が制度を理解し、必要に応じて家族等に情報提供を行う体制を整えることに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修やその後の内部研修を通じて、虐待と認められる事例などについて学習の機会を持ち、全職員に周知を図っている。また、管理者は、職員の言葉遣いなどに注意を払うなど、虐待を未然に防ぐよう努めている。虐待に関するマニュアルを作成し、発見時の対応方法や報告の流れを全職員に周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、理念や方針等を利用者や家族に十分説明し、同意を得ている。また、疑問や意見を引き出すよう努めている。契約改訂時や退居時にも説明して同意を得ており、退居時は、関係機関と連携を図るなど、利用者や家族に不安を与えないよう情報提供を行っている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態等について、面会時やホーム便り、電話で家族に報告している。職員の異動については、随時報告している。金銭管理状況の報告は毎月を予定しているが、定期的に報告するまでには至っていない。	○	領収書と出納帳を別の簿冊で管理しているため、家族に報告しやすいよう、1つの簿冊で管理する等の工夫を行い、月1回は家族に報告する体制を作ることに期待したい。
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は必ず家族と話す時間を持つなど、家族が意見や苦情等を話しやすい働きかけを行っている。また、重要事項説明書にホーム内外の苦情受付窓口を明示するほか、ホーム内に掲示し、継続的に家族に周知している。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による支援が受けられるよう、異動は最小限に抑えており、ここ数年異動は行っていない。新しい職員を採用する際は、新旧の職員が1ヶ月一緒に業務を行うなど、詳細に引継ぎを行うと共に、利用者への説明を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員研修の必要性を理解しており、資格取得を推奨すると共に、年間計画を作成し、積極的に職員を外部研修に派遣している。受講時は、日々のケアに支障をきたさないよう勤務体制等に配慮している。受講後は報告書を作成し、全職員が参加して伝達研修を行っている。業務に関する相談は、法人内の他施設の職員等から助言を得ている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム協会に加入し、研修や交流を通じて他事業所との連携を図っている。また、交流等で得られた情報は、今後のサービスの質の向上につなげている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族の意向に沿ったサービスを提供できるよう、十分に話し合いを行うほか、入居前にホームの見学や体験入居などを促し、馴染みながらサービスを利用できるよう支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の観察等により、利用者の楽しみごとや喜怒哀楽を把握するよう努めている。また、利用者は家族の一員と捉えており、食事の後片付けを手伝ってもらうなど、利用者と職員が支え合いながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを十分に行うほか、日々の会話や表情、行動から一人ひとりの意向把握に努めている。また、申し送り等で職員間の情報交換を行ったり、家族等から情報収集を行うなどの取り組みも行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時は、利用者や家族等から可能な限り情報を収集するほか、カンファレンスで日々の状況等を担当者から聞いたり、職員間で情報交換を行っており、利用者本位の具体的な内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示、終了後には見直している。日々の個人記録等を通して、利用者の状態や家族の要望等の変化を把握しており、変化時には随時見直している。見直し時は家族等から情報収集を行うなどの再アセスメントを行うと共に、必要に応じて医師から情報を得て、現状に即した計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	准看護師の資格を持つ職員を配置したり、希望により訪問歯科診療を実施している。また、遠方からの親族の宿泊希望に対応し、寝具の提供などを行ったり、ホームの車両を利用して、馴染みの美容院や墓参りに出かけるなど、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、希望により訪問歯科診療を行うほか、母体の医療機関に随時相談できる体制を整えている。受診時は、できる限り家族の同行を働きかけている。ホームで受診の同行を行う場合は、受診結果を電話や面会時に家族に報告し、情報を共有している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に移行した場合は、家族や医療機関を交えて話し合い、意思統一を図って方針を明確にしている。日々の健康管理や急変時の対応についても、利用者や家族、医療機関との意思統一を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を否定せず、一人ひとりを尊重した対応を心がけている。また、声掛け等は利用者のプライドを傷つけないよう配慮している。職員は個人情報保護法を理解しており、利用者の個人記録等は事務室に保管するなどの対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かさず、無理強いしないことを心がけている。また、業務を優先せざるを得ない時は、利用者の側に座って作業したり、別の職員に声をかけるなど、可能な限り利用者優先の姿勢で日々のケアを提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みなどに配慮し、旬の食材を取り入れた献立を作成している。利用者の力量に応じて後片付けなどを手伝ってもらったり、食べこぼし等へのサポートを行いながら、職員も一緒に食事を摂るなど、食事を楽しめるよう工夫している。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回となっているが、夏場のシャワー浴など、可能な限り利用者の希望に対応している。入浴時は職員2人体制で対応し、安全確保やプライバシー、羞恥心に配慮している。入浴を拒否する利用者には、時間をずらしたり、別ユニットの入浴日に声をかけるなどの工夫を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントや日々の関わりから、一人ひとりの力量等を把握しており、畑作業や家事等の役割や、物づくりやランプなどの楽しみごとを、個々に応じて促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を取り入れるほか、心身の状況に応じて場所や移動時間などに配慮し、町内や敷地内の散歩、近隣のスーパーへの買い物、ドライブなど、日常的に外出の機会を設けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容等を全職員が理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行わなければならない場合は、家族等に説明して同意を得るほか、マニュアルに沿って方法や期間、経過観察等を記録する体制となっている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関等は施錠しておらず、玄関を開閉するとチャイムが鳴る仕組みとなっている。やむを得ず施錠する場合は、家族に説明して同意を得ることとなっている。外出傾向を察知できるよう見守りを行っており、察知した時は付き添うなどの支援を行っている。また、無断外出時に備えて、運営推進会議等で協力を呼びかけている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て日中・夜間を想定した避難訓練を年2回行うほか、緊急時の連絡網等を事務室に掲示している。また、避難場所を確保している。災害時に備えて、警察署や消防署、近隣からの協力が得られる体制を整備すると共に、水や食料等の備蓄品を2ヶ所に分けて用意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、母体医療機関の栄養士の協力を得て、栄養バランスや利用者の食習慣を考慮しながら作成している。1日の総カロリーは1,800~2,000kcal、総水分量は約1,000mlを目安として提供している。食事摂取量は毎回記録しているが、水分摂取量を把握するまでには至っていない。	○	高齢者にとって水分摂取量が心身に与える影響は非常に大きいので、水分摂取量を把握し、記録することに期待したい。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルを作成し、最新情報等を得た時は随時見直している。また、流行時に合わせて学習会を開催し、全職員へ周知している。感染症流行時は、ホーム便りや玄関への掲示等で予防策を家族にも周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにゆったりとしたソファを置いたり、食卓の一端挿しに花を飾るなど、家庭的で季節感のある雰囲気となっている。テレビの音や職員が立てる物音は静かである。また、ホーム内の明るさも適切であり、利用者が落ち着いて過ごせる環境となっている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から愛用してきた物や馴染みの物を持ってきてもらうよう、家族に積極的に働きかけている。また、行事の写真を飾るなど、一人ひとりが居心地良く過ごせる居室づくりを行っている。		

※  は、重点項目。